

令和4年度地域コミュニティアプリ
実証事業 実施報告書

令和5年3月31日

福島県南相馬市

地域コミュニティアプリの実証事業 (予算事業名：地域電子回覧板実証事業)

事業の内容

【事業目的・概要】

- 本市においては、震災以前に比べ、広報紙や各種イベント、事業に関するお知らせなど、**行政区への配布物が増加**している状況にあります。これは、**行政区の役員（行政区長や隣組長）の仕分けや配布の負担**につながるものであり、また、紙ベースでの情報提供は、**情報の鮮度・即時性という点も課題**となります。
- そうした課題解決の可能性を探るため、スマートフォンなどのアプリを活用する社会実証事業を実施しました。

【地域コミュニティアプリを導入するメリット】

- 😊 回覧文書の作成や配布等に係る**労力を削減**できます。
- 😊 緊急時の**連絡**（例：訃報などの連絡）が**容易**にできます。
- 😊 イベントや行事の**出欠確認**なども**簡単**です。
- 😊 災害時には**安否確認**にも活用できます。
- 😊 身近な情報も住民同士で**簡単に共有**することができます。



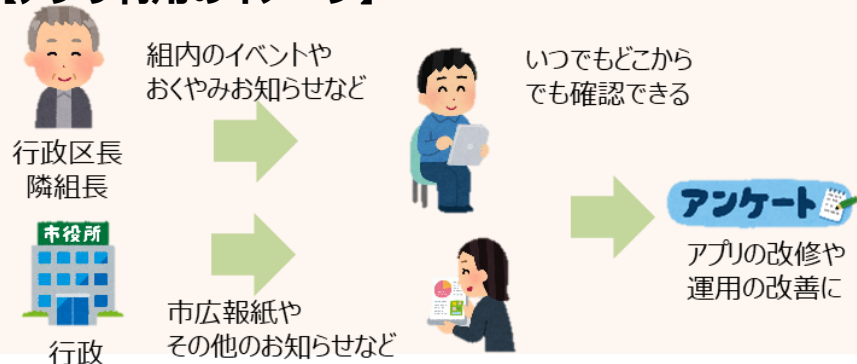
事業イメージ

【実証事業実施の流れ】

- ① 7月1日号広報紙において、実証事業に参加を希望する隣組を募集。
 - ② 9月11日（原町区内）、9月21日（鹿島区内）、9月25日（小高区内）で参加希望者を対象とした事業説明会、アプリの操作説明会を開催。
 - ③ 説明会に合わせてアンケート（1回目）を実施。
 - ④ 10月1日号広報紙からアプリ配信を開始
 - ⑤ 11月にアンケート（2回目）を実施
 - ⑥ 2月にアンケート（3回目）を実施
- ※アンケートは全てスマートフォン、タブレット端末で回答

7月 参加募集	9月 説明会	10月～ 実証事業開始	アンケート 調査
------------	-----------	----------------	-------------

【アプリ利用のイメージ】



広報みなみそうま令和4年7月1日号

隣組の活動をサポートする実証事業 参加者募集

市では、広報紙等情報発信の電子化の実証事業にご協力いただける隣組を募集します。

実証事業では、お持ちのスマートフォンやタブレットで使えるアプリを活用します。アプリを使うと、行政区内の広報物を配布したり作成したりする手間が省けるとともに、情報を受け取る側も、いつでもどこでも閲覧できるようになります。また、電話などで連絡を取り合う必要があった出欠確認などが、簡単な操作ですぐに集約できます。

参加者を対象に説明会を開催します。操作に不慣れな方も安心してご参加ください。

事業名 地域電子回覧板実証事業

アプリの機能

- 市の広報紙やチラシ、行政区内の配布物の閲覧
- 行事などの案内や出欠確認
- 災害時の安否確認

実証期間

10月ごろから3カ月間程度

募集数 10隣組程度

応募期間 7月1日～22日(金)

応募方法

電話(隣組長が行政区長を通じて申し込み)

応募先・問合せ

デジタル推進課

☎④5 2 1 3



市ホームページ



3月末まで延長して実施した

▲画面のイメージ

参加希望

No.	行政区
1	小高区五区
2	小高区上浦
3	小高区下耳谷
4	鹿島区一区
5	原町区上高平一
6	原町区錦町一
7	原町区泉

合計で50世帯、70名以上が実証事業に参加

高校生ボランティアを募集

地域の人たちに
スマホ操作を教える
ボランティアを
してみませんか？



ボランティア募集
参加者には「ボランティア活動参加証明書」を発行します。

市では、行政区内の広報紙等の配布の負担軽減や新しい情報共有の仕組み等を検討するため、**地域コミュニティアプリ**を活用する実証実験を実施します。

活動内容 高校生ボランティアの皆さんには、**実証実験の準備説明会**（場所は各地域の公会堂等を予定）で**地域の人たちにアプリ導入や操作方法の補助**などをお手伝いいただきます。

活動日程 9月25日（日）
10時から17時頃までを予定。
※開催場所までは市職員が送迎します。
※午前や午後のみなどの希望はご相談ください。

募集人数 2～3名程度
（先着順）
※事前に参加者説明会を開催します（新型コロナ対策含む）。

申込期限 令和4年9月9日（金）

お申込み・お問い合わせはこちらまで

南相馬市 デジタル推進課

電話：0244-24-5213 メール：digital@city.minamisoma.lg.jp



- 市内の高校に声掛け
- **ICT支援員の方たちに学校との間を取り持ってもらう**



- 2校11名がボランティアとして参加

参加者への説明会 ～地元高校生も巻き込み～②

@上高平一集落センター



@泉公会堂



参加者への説明会 ～地元高校生も巻き込み～③

@下耳谷行政区



@上浦行政区

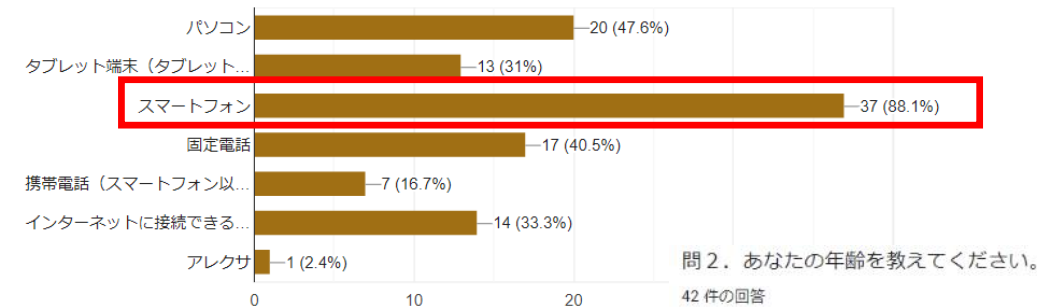


参加者の声 ～事業開始前のアンケート調査～

問3. あなたが現在所有している情報通信機器を教えてください。
(あてはまる回答すべてを選択してください)

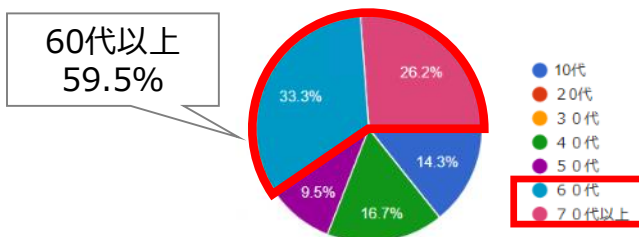


42 件の回答



問2. あなたの年齢を教えてください。

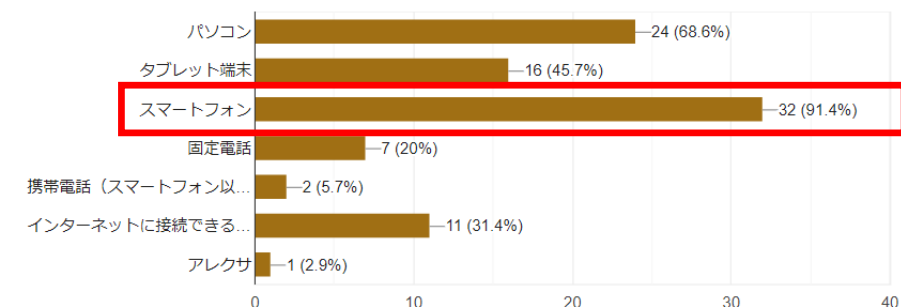
42 件の回答



問5. インターネットを利用している機器をおしえてください。
(あてはまる回答すべてを選択してください)



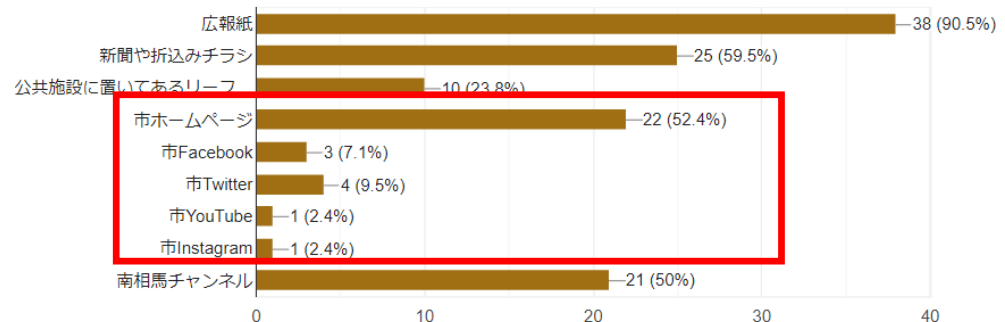
35 件の回答



問13. 市に関する情報を主にどのような方法で入手していますか。
(あてはまる回答すべてを選択してください)



42 件の回答

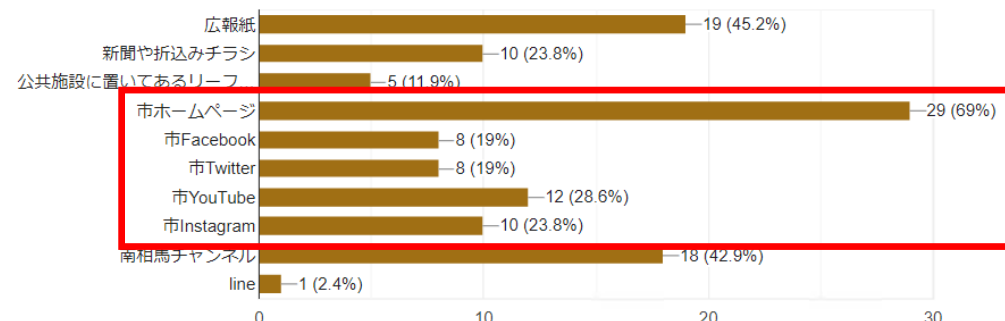


問14. 今後、市の情報発信でさらに活用が進んでほしいと思う方法を教えてください。



(あてはまる回答すべてを選択してください)

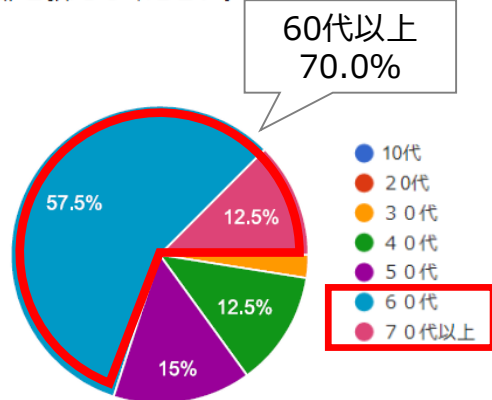
42 件の回答



参加者の声 ～中間アンケート調査～①

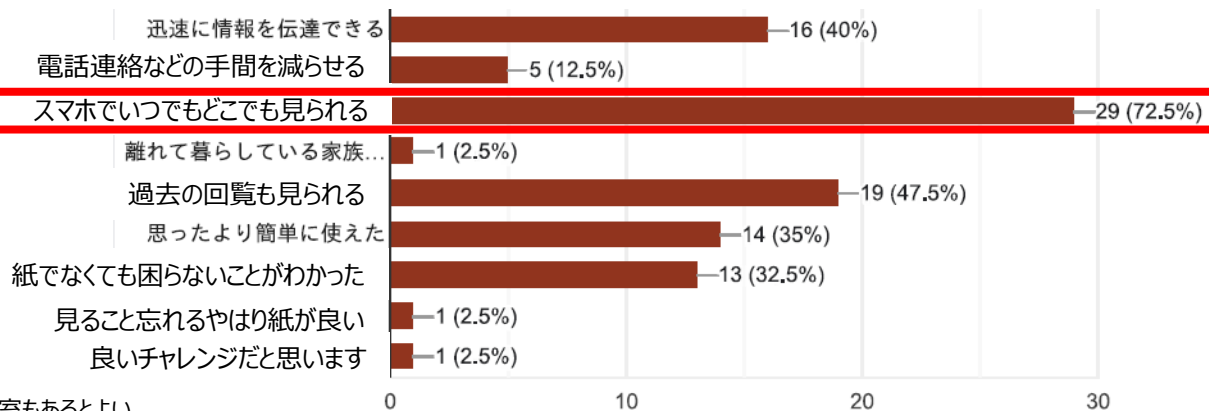
問2. あなたの年齢を教えてください。

40件の回答



問4. アプリを使用してみてよかったと感じた点を教えてください。
(あてはまる回答すべてを選択してください)

40件の回答

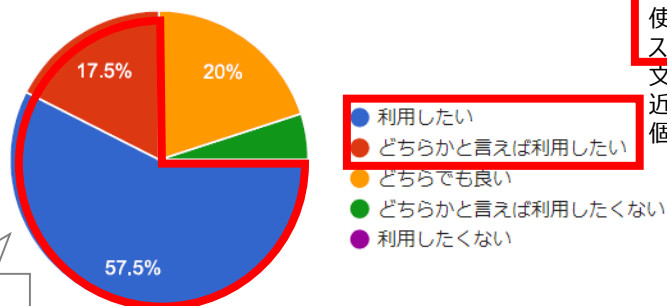


スマホの操作教室もあるとよい

問6. 来年度の継続利用について、現時点での希望を教えてください。

(あてはまる回答を1つ選択してください)

40件の回答

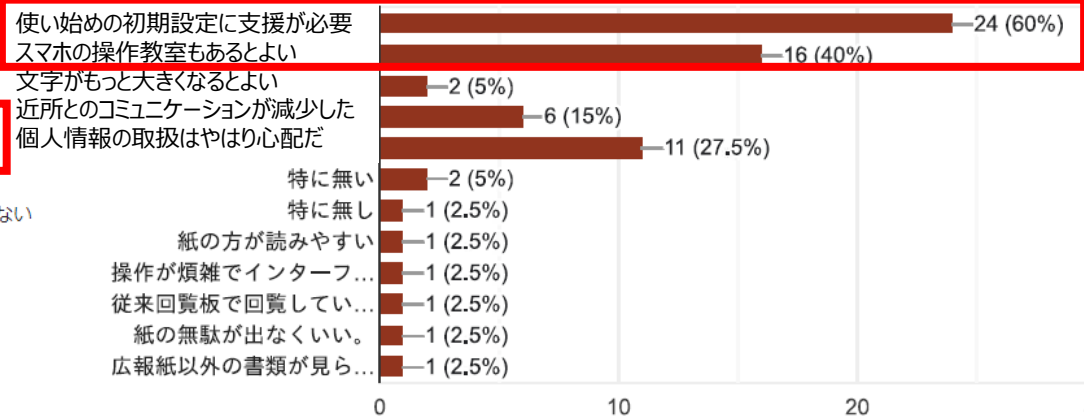


ポジティブ
75.0%

問5. アプリを使用してみて課題に感じた点を教えてください。

(あてはまる回答すべてを選択してください)

40件の回答



参加者の声 ～中間アンケート調査～②

今回の実証実験についてご意見等がありましたら教えてください。(n=25)

※「特になし」や同様の意見は割愛して記載しています。

【利用の効果等について】

- 大変にいいです。
- 早く実施されれば良いと思う。
- 広報紙なら、切り取り等して保存したり市の情報を強く感じられる気がします。が**時代の流れにも進まない!**と思ったりします。
- 結ネットを早く進めてほしい。行政区などの連絡も進めてほしい。それにより**家族全員の情報共有ができる**。
- 大変素晴らしいシステムです。間違いなくこのシステムに移行すると思います。
- **紙の無駄がない**大変いい。

- 今回の実証実験結果を元に、費用対効果も含め、どの様に活用すべきか検討して、**次の段階に進んでほしい**。
- この手のアプリは**機能があることよりも気持ちよく使えるか**がかなり肝なので、選定や開発に当たってはそのあたりを重視されるのが良いと思います。
- 電子回覧板の運用について、新型コロナウイルス感染症防止と若い世代の地域活動が望めると思います。南相馬市においては、高齢化世帯も多いと思いますのでスマートフォン、タブレット等所持していない世帯もいる中、老人会、隣組単位で交流を図りながらの**電子回覧板の講習が開かれると良い**かなと思います。
- **隣組に加入されていない方達が活用**した方が良いのではないかと。

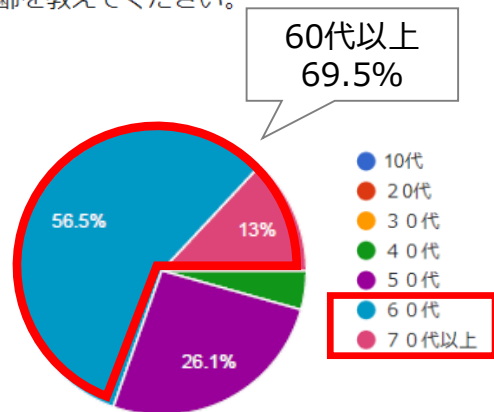
【懸念点について】

- タブレットやスマホがあって操作出来る人なら便利になると思うが**高齢者などは無理**がある。もう少し時間が必要であると思われる。
- ご**高齢の方には不向き**かと。
- **高齢者の方はわからない**と思います。
- **高齢者には使いづらい**。
- パソコン操作が分かる人にいいのですが、**年配の方には難しい**ので浸透させるのに大変ではないかと思料される。
- 今回参加された方でも、**有効に使いこなせた人は少ない**と思う。行政区内での連絡に使って行けば、だんだん周知されるのではないかと。

参加者の声 ～年度末アンケート調査～

問 2. あなたの年齢を教えてください。

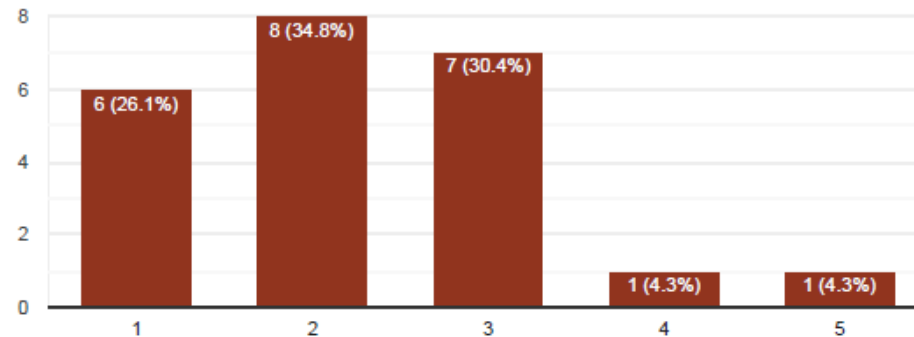
23 件の回答



問 20. アプリの使用感など総合的な評価について教えてください。

(1 非常に良い、3 普通、5 非常に悪い)

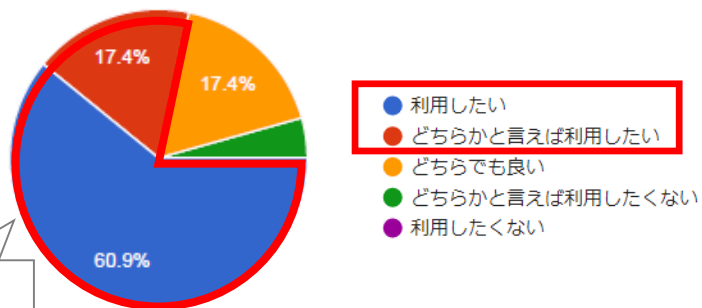
23 件の回答



問 6. 来年度の継続利用について、現時点での希望を教えてください。

(あてはまる回答を 1つ選択してください)

23 件の回答



問 21. 来年度もアプリを活用した実証事業を継続・拡大する予定です。今回、使ってみて、このアプリの利用を広げていくための意見があれば教えてください。

14 件の回答

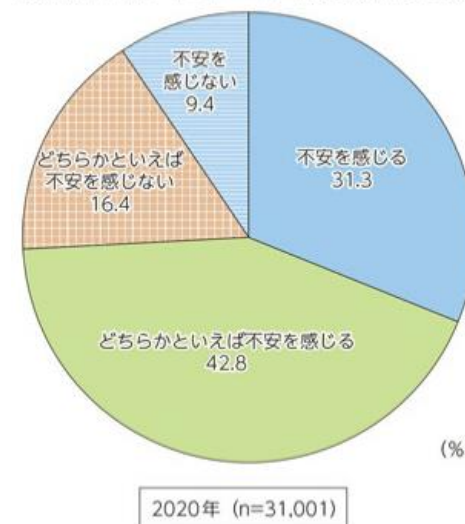
- 活用状況をリアルタイムに解るようにすると良いと思う。
- 高齢の世帯のフォローは必要
- パソコンやスマホを持っていない方や使い方がわからない方への支援が必要
- 行政区の連絡や、隣組の連絡はアプリを利用することが出来ていない
- クイズやアンケートなど参加型の項目があれば良いと思う
- 習うより慣れる と思ってます。なので、覚えればと！呼びかけも良いかなと。
- マイナカードの普及などを参考にして広報してください。
- 閲覧のみではなく、申込み、問い合わせ等が、アプリ内できると良いのでは。
- スマホ等所持していない世帯の方々に、組単位でコミュニケーションを図って実証事業に参加していただきたいと思ひます。
- TOPmenuを一画面で表示して自分の観たい情報にアクセス出来るように
- 一番は口コミ。
- 分かりやすく
- 拡大することも必要と懸念されるが、まずは現状を継続して浸透させることが先決ではないか

ポジティブ
78.3%

1 アンケートから見て取れる効果や課題を受けて

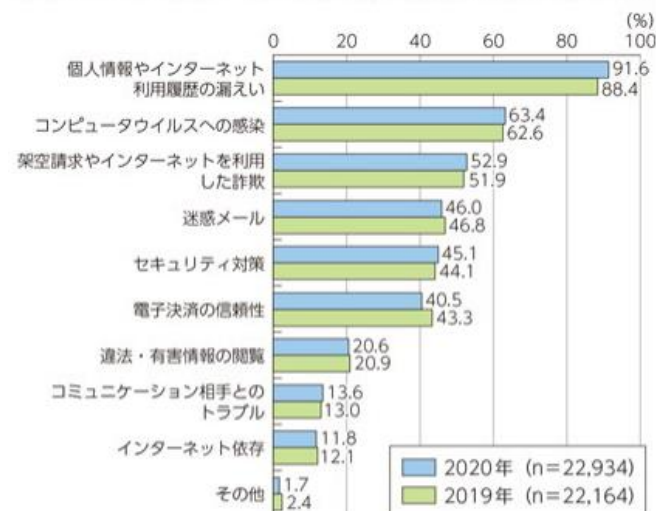
- 参加者はまだまだ少ないものの、**ほとんどの方がスマートフォンを所有**しており、スマートフォンを介して**インターネットも利用**している。
- アンケート回答者の年齢別の割合は、3回とも**60代以上の方が60%~70%、50代も加えると70%~95%**となっている。
- スマートフォンやタブレット端末を活用することで、利用者側から見たメリットは電子データで**どこでもタイムリーに**市からのお知らせや行政区・隣組**情報を入手が可能**となることであり、配信側（市や行政区役員）にとっても**情報の迅速性や記録性**がメリット。アンケート結果からも良かった点として「スマートフォンでいつでもどこでも見られる」、「過去の回覧も見られる」の回答数が多く、メリットと考える効果は**一定程度実感してもらえた**と想定される。
- 一方で、アプリの活用に関する課題として、「使い始める際の初期設定に支援が必要」、「スマホの操作教室もあるとよい」、「高齢者には難しいのではないか」、「個人情報の取り扱いはやはり心配だ」の回答数が多かった。初期設定の支援やスマホ教室等については、**普段からスマートフォンの操作に不慣れな状況が原因**の一つと想定される。また、個人情報の取り扱いの不安は、**ICTサービス利用全体に関する不安**との関連が大きいのではないかと考えられる（参考：図4-2-1-10、図4-2-1-11）。なお、高齢者については、高齢者だから難しいのではなく、スマートフォンなどの機器の利便性、必要性を実感していない、若しくは操作に慣れていない方に高齢者が比較的多いということと想定される。併せて、役員からの情報発信が少なく**使いこなしについても課題**があったと想定する。

図表4-2-1-10 インターネット利用時に不安を感じる人の割合



(出典) 総務省「通信利用動向調査」

図表4-2-1-11 インターネット利用時に感じる不安の内容（複数回答）



(出典) 総務省「通信利用動向調査」

2 令和5年度に向けて

- 本市においては、震災後の生産年齢人口、年少人口の減少、相対的に急激に進んだ高齢化が社会課題の一つ。全国的に見ても人口はすでに減少期に突入している状況。
- そうした中で、今後は、これまでどおりのやり方で「できること」と「できなくなること」がより顕在化してくると想定される。
- 将来、想定されるこうした課題の対応策の一つとして、地域を巻き込みながら、地域コミュニティアプリのような技術を活用し、「できなくなること」を「できること」に変えていく取り組みを今から地道に継続していくことが大切。
- 課題として挙げられた意見への対応を検討しながら、令和5年度も継続して事業を実施し、**地域コミュニティアプリの使いこなしまで実証**を進め、令和6年度からは本格導入への移行を目指す。

3 令和5年度の検証項目

- ✓ 令和4年度は、地域コミュニティアプリの「配信情報を見る」以外の機能を使いこなせていない状況であったことから、令和5年度は、**操作・使い方**など更に**利用者に寄り添ったサポート体制（定期的な操作説明会やキャリアと連携したスマホ教室など想定）を提供**することで、行政区内のイベントやお悔やみ情報の発信など行政区役員等の負担軽減に資する能動的な**使いこなしが向上するかを検証**する。
- ✓ 令和4年度は地域コミュニティアプリによる電子配信と併用して、紙媒体を配布した状況での実証となっていたことから、令和5年度は、紙媒体での配布をやめ、実際に**アプリによる電子配信のみ**とした状況について、行政区役員等の負担軽減に資する**アプリの有効性を検証**する。
- ✓ **災害時の安否確認機能**についても令和4年度には検証できなかったことから、令和5年度は、例えば、災害訓練などと連携させることで、**災害時のアプリの有効性も検証**する。